

15 中部国際空港二本目滑走路の早期整備について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 中部地域ひいては国に不可欠な中部国際空港の完全24時間化に向け、我が国の中枢機能を分担することなどこの地域の将来の姿を見据え、国が主体となって必要な調査検討を行うこと。
- (2) 中部国際空港の完全24時間化につながるよう、ビジットジャパンキャンペーンなどインバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要の拡大の取組を推進すること。
- (3) 空港利用者の利便性向上のため、アクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

中部国際空港は、開港以来、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展に大きく貢献している。

我が国が、現在の厳しい経済状況を脱し、今後更なる成長を実現するためには、日本の成長エンジンである当地域が、アジア新興国の成長等を取り込み一段と国際競争力を高め、世界と闘える愛知・名古屋となることで我が国経済を牽引していく必要がある。

また、リニア中央新幹線の開通による首都圏と直結した巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や、大震災により顕在化した首都圏への一極集中による弊害を是正するため国の中枢機能を適切に分担することなどに、適切に対応しなければならない。

このため、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港に二本目の滑走路を早期に整備し、完全24時間化を実現することが不可欠である。

併せて、地域と国内外とを直結する航空ネットワークの維持・充実も不可欠であることから、急務である航空需要の拡大のため、エアポートセールスやインバウンド促進事業など様々な事業を地域関係者が一丸となって積極的に取り組んでいるところである。

空港利用者の利便性向上に向けて、西知多道路の整備など、さらなるアクセスの充実が必要である。

(参 考)

中部国際空港



社会資本整備重点計画

現計画（平成24年8月31日閣議決定）での位置づけ

「中部国際空港については、将来の完全24時間化という課題を見据え、国内空港で唯一超大型貨物のシー＆エア輸送に対応可能な施設などの既存ストックの有効活用等による一層の需要拡大に向けた取組を進める。」

愛知・名古屋の競争力強化につながる環境変化

リニア中央新幹線開通によるメガリージョンの形成

- ・東京 - 名古屋間（約40分）の開通（2027年予定）

広域幹線道路の整備

- ・新東名高速道路（豊田～浜松）開通（2014年予定）
- ・新名神高速道路（四日市～亀山）開通（2018年予定） など

航空宇宙産業の一大拠点形成

- ・「アジアNO.1航空宇宙産業クラスター形成特区」指定（2011年）
- ・B787部品の生産拡大（月産3機 10機）、シー＆エア輸送の増大

航空需要拡大に向けた地域の取組状況

愛知県	海外でエアポートセールスを実施
中部国際空港 利用促進協議会	ファムトリップ（海外旅行事業者等の招聘事業）など、インバウンド需要の拡大事業の実施
	トラック共同輸送事業や輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援の実施
	新規就航促進事業の実施